

平成23年度4～7月の
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しについて

平成23年5月19日

需給・取引専門部会、需給等分科会

社団法人 日本酪農乳業協会

1. 地域別の生乳生産量の動向

【北海道】

・第1四半期 1,001千㍑（前年見込み対比99.6%、以降同じ）、7月 340千㍑（99.4%）で、
合計 1,341千㍑（99.6%）と見通される。

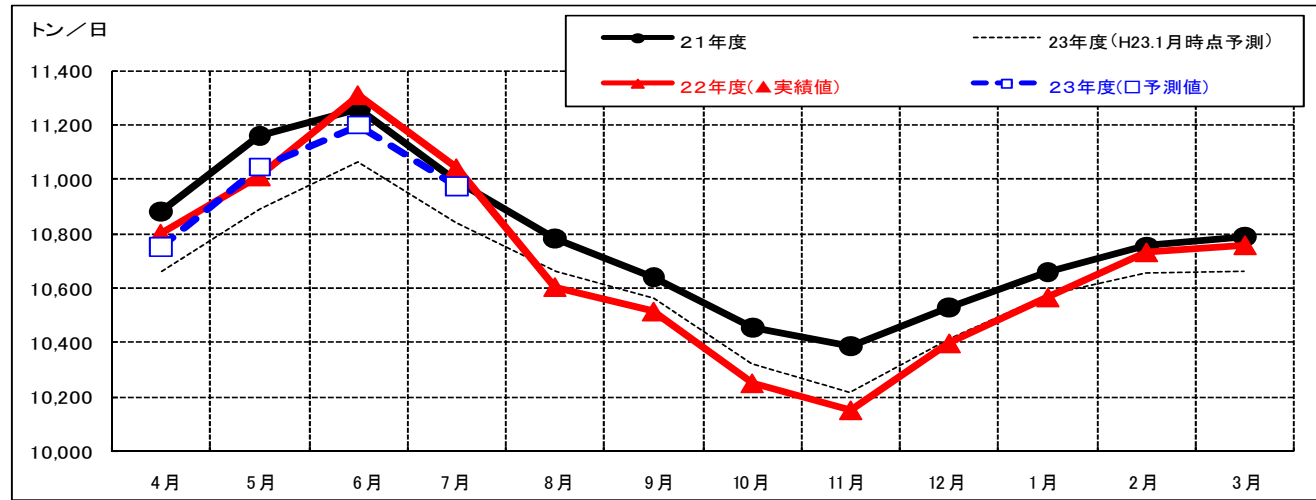
【都府県】

・第1四半期 931千㍑（92.6%）、7月 293千㍑（92.2%）、合計 1,224千㍑（92.4%）と見通される。

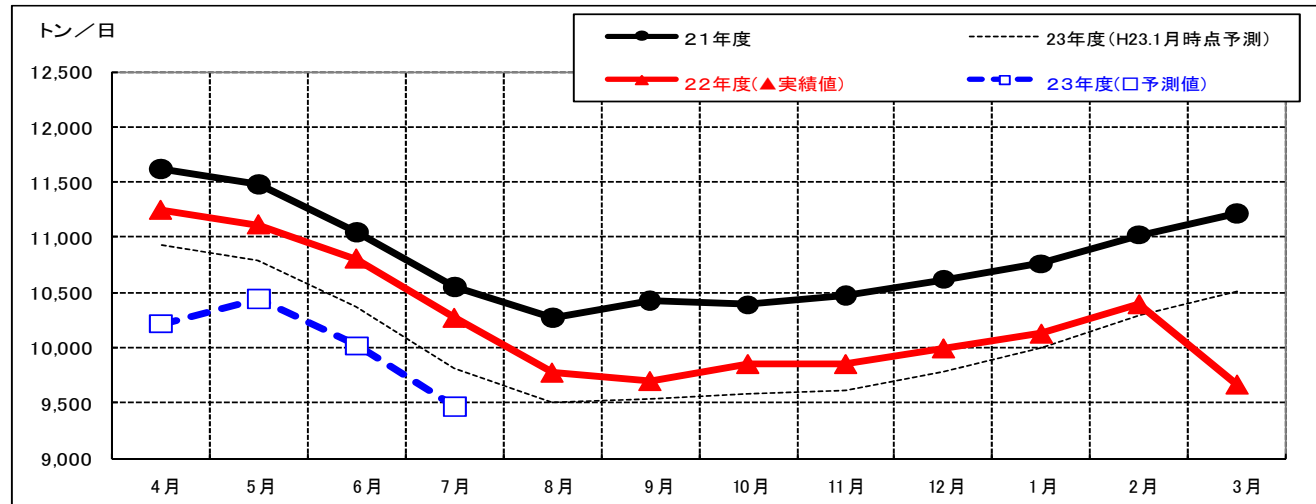
【全国】

・全国トータルの生乳生産量は、第1四半期 1,932千㍑（96.1%）、7月 634千㍑（95.9%）、
合計 2,566千㍑（96.1%）と見通される。

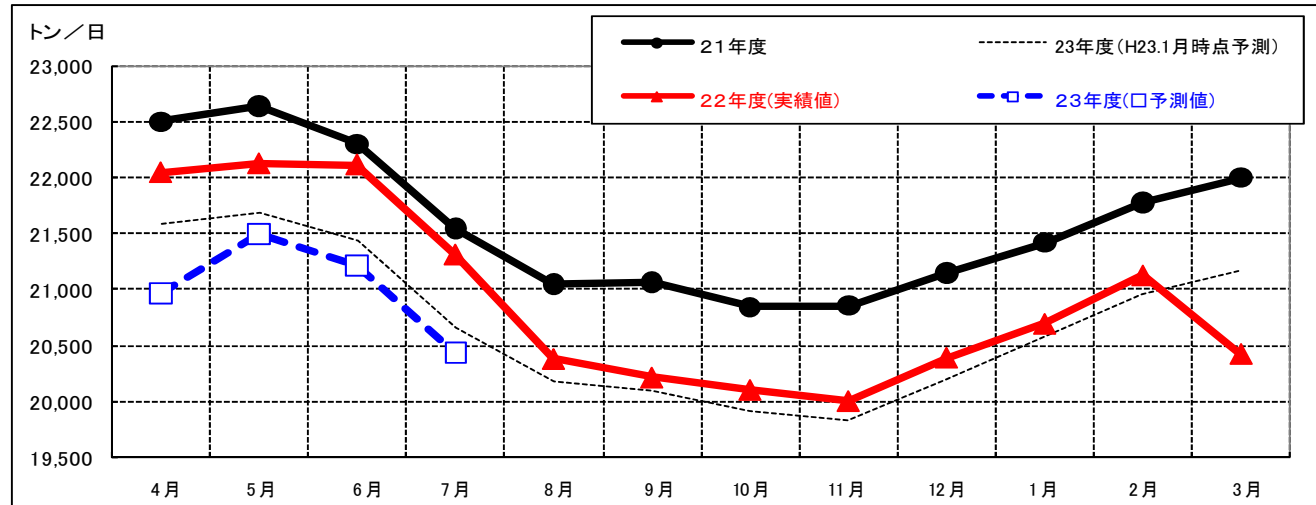
グラフ1-1：北海道の生産量(日均量)



グラフ1-2：都府県の生産量(日均量)



グラフ1-3：全国の生産量(日均量)



【生乳生産量予測の前提】

・生乳生産は震災等の影響で廃棄、出荷停止が発生しており、一旦その影響を排除した上で、平成23年度の生乳生産量を予測モデルで算出した。更に、それを基に震災等の影響を考慮し、東北地域他の値を下方修正した。
・なお、実績値が判明したものは予測値を実績値に置き換えている。

表1-1：平成22年度 地域別生乳生産量の実績

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	661	98.0%	324	99.3%	337	96.7%
5月	686	97.7%	341	98.7%	344	96.8%
6月	663	99.2%	339	100.5%	324	97.8%
7月	661	98.9%	342	100.4%	318	97.4%
8月	632	96.8%	329	98.4%	303	95.2%
9月	606	96.0%	315	98.8%	291	93.0%
10月	623	96.5%	318	98.1%	305	94.8%
11月	600	95.9%	305	97.8%	296	94.1%
12月	632	96.4%	322	98.7%	310	94.1%
1月	641	96.6%	328	99.1%	314	94.1%
2月	591	97.0%	300	99.8%	291	94.3%
3月	633	92.8%	333	99.7%	300	86.2%
第1四半期	2,010	98.3%	1,005	99.5%	1,006	97.1%
第2四半期	1,899	97.3%	986	99.2%	912	95.2%
第3四半期	1,855	96.3%	945	98.2%	911	94.3%
第4四半期	1,866	95.4%	962	99.5%	905	91.4%
上期	3,909	97.8%	1,991	99.3%	1,918	96.2%
下期	3,722	95.8%	1,906	98.9%	1,815	92.8%
年度	7,631	96.8%	3,897	99.1%	3,734	94.5%

表1-2：平成23年度4～7月 地域別生乳生産量の見通し

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	629	95.1%	323	99.5%	306	90.9%
5月	666	97.1%	342	100.3%	324	94.0%
6月	637	96.0%	336	99.0%	301	92.7%
7月	634	95.9%	340	99.4%	293	92.2%
第1四半期	1,932	96.1%	1,001	99.6%	931	92.6%
合計	2,566	96.1%	1,341	99.6%	1,224	92.4%

2. 牛乳等生産量の動向

【牛乳】

・第1四半期 775 千kl (99.5%)、7月 251 千kl (95.8%) で、合計 1,026 千kl (98.5%) と見通される。

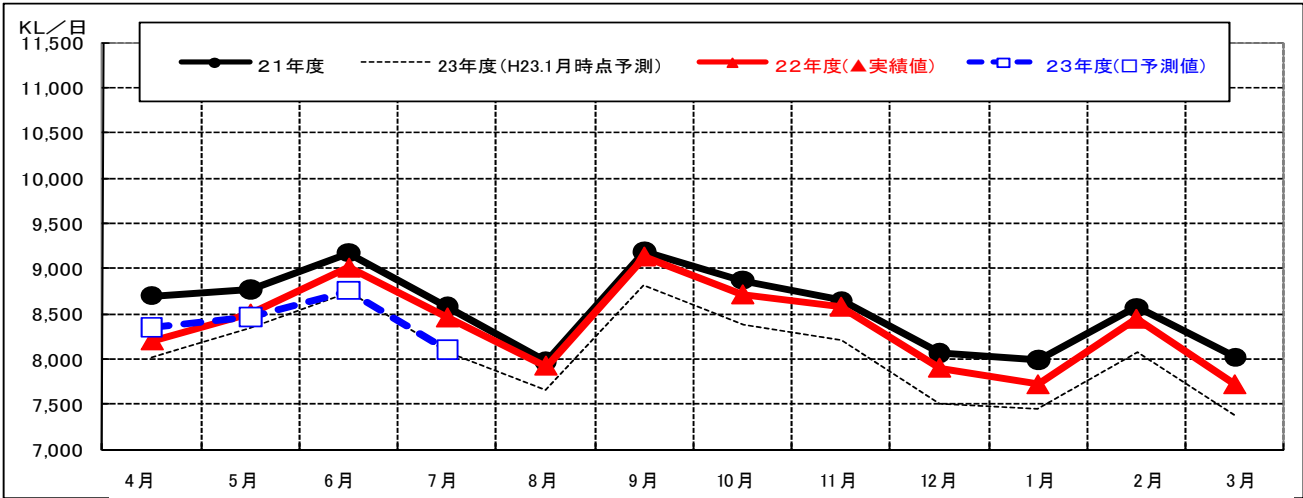
【加工乳・成分調整牛乳・乳飲料】

・第1四半期 480 千kl (100.2%)、7月 174 千kl (98.0%) で、合計 654 千kl (99.6%) と見通される。

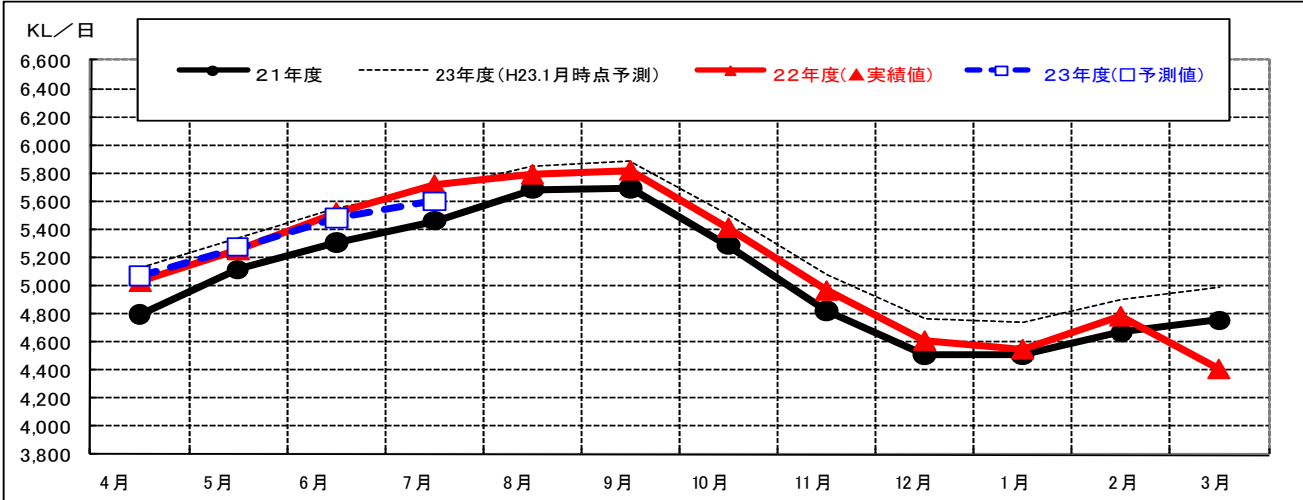
【はっ酵乳】

・第1四半期 231 千kl (100.8%)、7月 76 千kl (98.8%) で、合計 307 千kl (100.5%) と見通される。

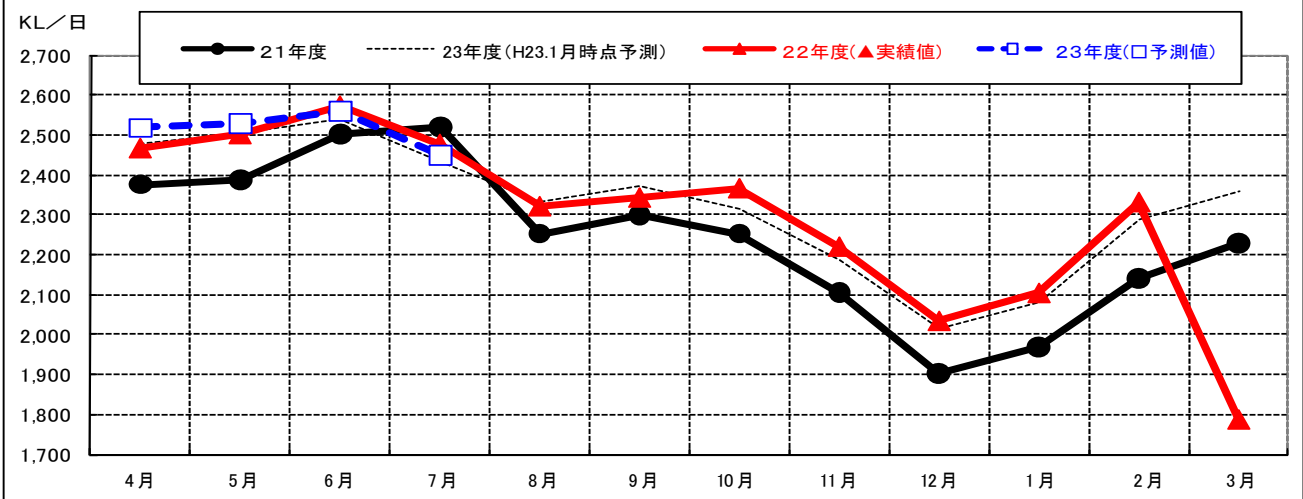
グラフ2-1：牛乳の生産量(日均量)



グラフ2-2：加工乳・成分調整牛乳・乳飲料の生産量(日均量)



グラフ2-3：はっ酵乳の生産量(日均量)



【牛乳等生産量予測の前提】

- ・牛乳等生産量は現時点で震災等による牛乳等需要への影響について見込むことが困難なため、平成23年2月までの実績値をトレンドとして予測モデルで予測した。
- ・なお、予測値で実績が判明したものは実績値に置き換えている。
- ・牛乳は、「学乳」「業務用牛乳」「業務用・学乳以外の牛乳」を別々に予測した値の総量。
- ・「加工乳・成分調整牛乳・乳飲料」は、「加工乳・成分調整牛乳」と「乳飲料」に区分して予測した値の総量。

表2-1：平成22年度 牛乳等生産量の実績

	牛乳		加工乳・成分調整牛乳・乳飲料		はっ酵乳	
		前年比		前年比		前年比
4月	246	94.3%	151	104.8%	74	103.8%
5月	263	97.0%	163	102.7%	78	104.9%
6月	270	98.2%	166	104.0%	77	102.8%
7月	262	98.6%	177	104.7%	77	98.3%
8月	245	99.4%	179	101.8%	72	103.1%
9月	274	99.4%	174	102.2%	70	101.9%
10月	270	98.2%	168	102.3%	73	105.1%
11月	257	99.2%	149	103.0%	67	105.4%
12月	245	97.9%	143	102.2%	63	107.0%
1月	239	96.5%	141	100.9%	65	106.8%
2月	236	98.5%	134	102.5%	65	109.0%
3月	239	96.2%	137	92.8%	55	80.3%
第1四半期	780	96.5%	479	103.8%	229	103.8%
第2四半期	782	99.1%	531	102.9%	219	101.0%
第3四半期	772	98.4%	460	102.5%	203	105.8%
第4四半期	714	97.1%	412	98.5%	186	97.9%
上期	1,561	97.8%	1,010	103.3%	448	102.4%
下期	1,486	97.8%	871	100.6%	389	101.8%
年度	3,048	97.8%	1,882	102.0%	837	102.2%

表2-2：平成23年度4～7月 牛乳等生産量の見通し

	牛乳		加工乳・成分調整牛乳・乳飲料		はっ酵乳	
		前年比		前年比		前年比
4月	250	101.8%	152	100.8%	76	102.1%
5月	262	99.6%	163	100.4%	78	101.1%
6月	263	97.2%	164	99.4%	77	99.4%
7月	251	95.8%	174	98.0%	76	98.8%
第1四半期	775	99.5%	480	100.2%	231	100.8%
合計	1,026	98.5%	654	99.6%	307	100.5%

3. 用途別処理量の動向

【生乳供給量】

・第1四半期 1,932 千㍓ (96.1%)、7月 634 千㍓ (95.9%) で、合計 2,566 千㍓ (96.1%) と見通される。

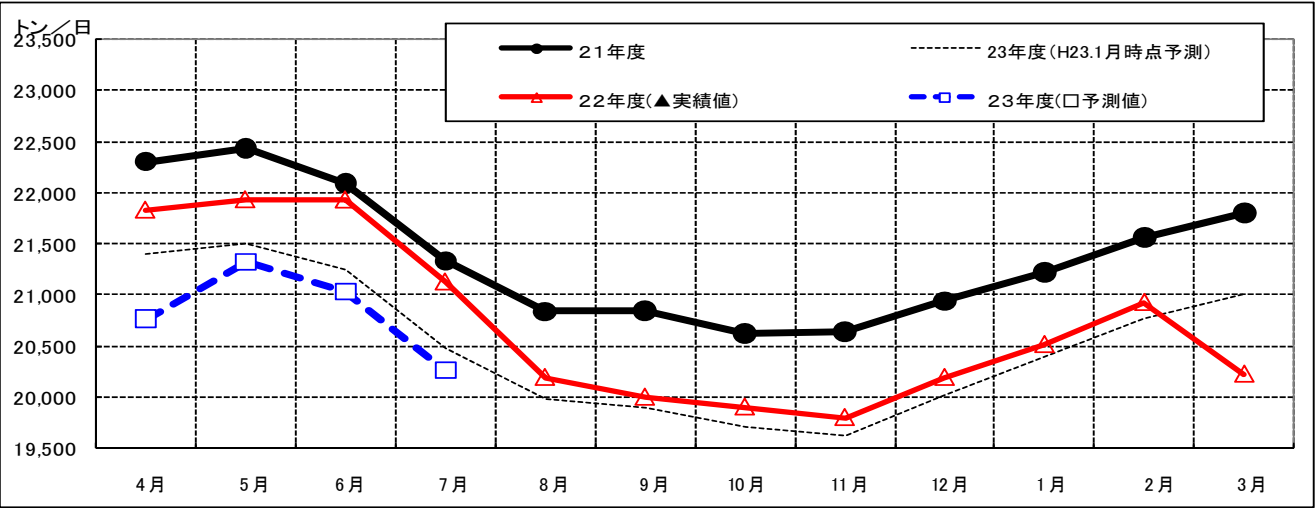
【牛乳等向生乳処理量】

・第1四半期 1,053 千㍓ (99.7%)、7月 349 千㍓ (96.4%) で、合計 1,402 千㍓ (98.7%) と見通される。

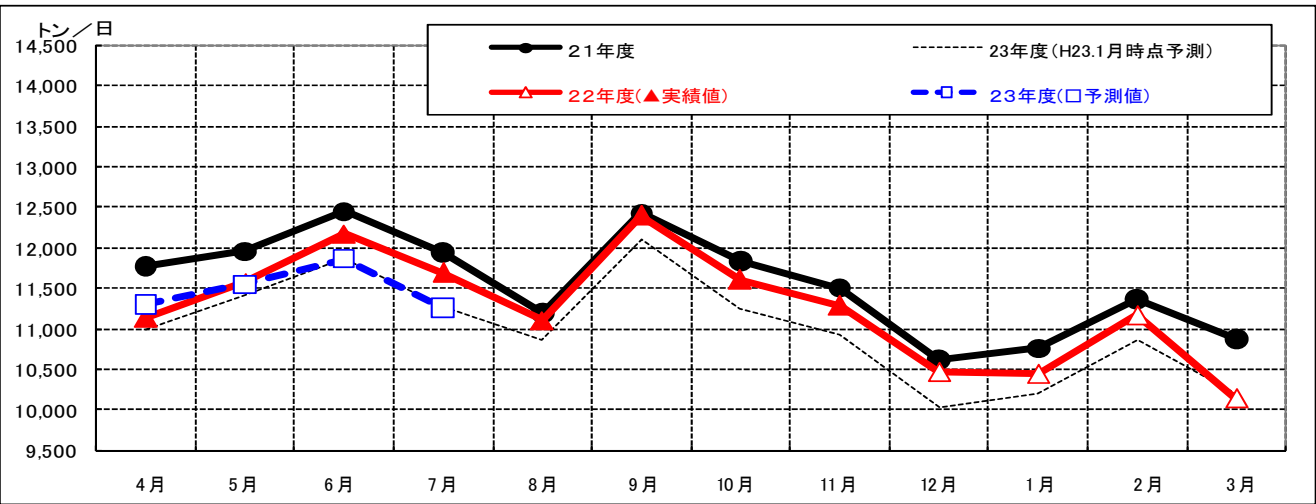
【乳製品向生乳処理量】

・乳製品向処理量は、第1四半期 861 千㍓ (92.0%)、7月 279 千㍓ (95.3%) で、合計 1,140 千㍓ (92.9%) と見通される。

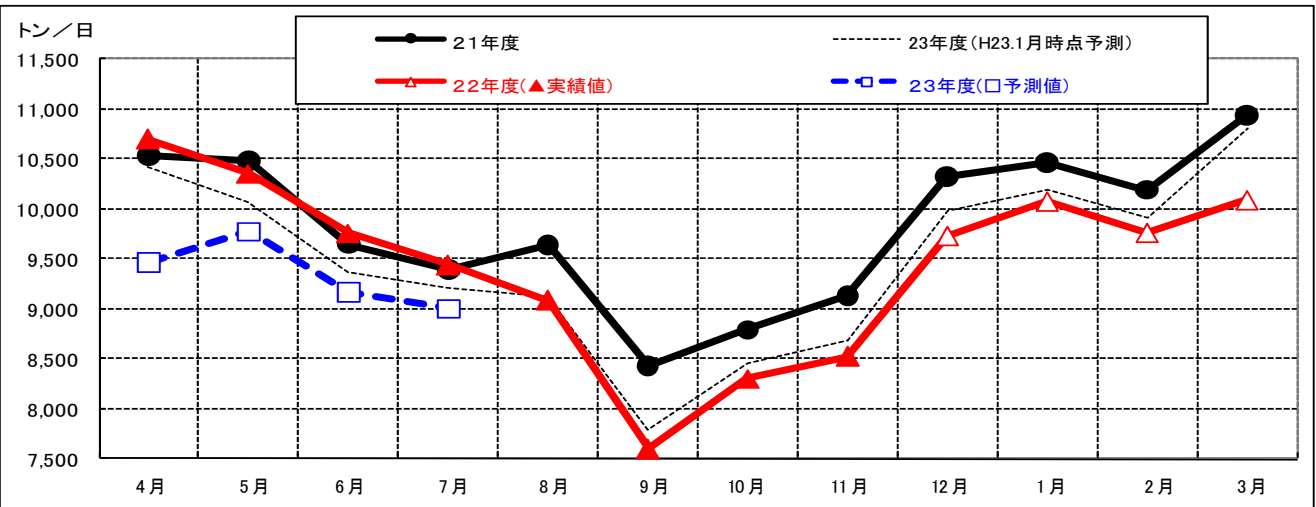
グラフ3-1：生乳供給量（全国・日均量）



グラフ3-2：牛乳等向け生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品向け生乳処理量（日均量）



【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費を差し引いて算出(自家消費は、各地域の過去3年の伸び率を勘案して算出)。
- ・牛乳等向処理量は、牛乳、加工乳・成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を元に、生乳使用率、比重(1.032)及び歩留まり(99.5%)を勘案して算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。

表3-1：平成22年度 生乳生産量及び用途別処理量の実績

千トン										
	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
		前年比						前年比		前年比
4月	661	98.0%	6	99.5%	655	97.9%	334	94.5%	321	101.8%
5月	686	97.7%	6	93.9%	680	97.8%	359	96.7%	321	98.9%
6月	663	99.2%	6	94.0%	658	99.2%	365	97.7%	292	101.2%
7月	661	98.9%	6	91.1%	655	99.0%	362	97.9%	292	100.4%
8月	632	96.8%	6	94.8%	626	96.8%	344	99.2%	281	94.1%
9月	606	95.9%	6	94.5%	600	96.0%	372	99.8%	228	90.3%
10月	623	96.5%	6	91.9%	617	96.5%	360	98.0%	257	94.4%
11月	600	95.9%	6	90.7%	594	96.0%	339	98.1%	256	93.3%
12月	632	96.4%	6	92.3%	626	96.5%	324	98.5%	302	94.3%
1月	641	96.6%	5	88.9%	636	96.7%	324	97.0%	312	96.3%
2月	591	97.0%	5	90.8%	586	97.1%	313	98.2%	273	95.8%
3月	633	92.8%	6	90.0%	627	92.8%	314	93.2%	314	92.6%
第1四半期	2,010	98.3%	18	95.7%	1,993	98.3%	1,058	96.3%	936	100.6%
第2四半期	1,899	97.3%	18	93.5%	1,881	97.3%	1,079	99.0%	802	95.1%
第3四半期	1,855	96.3%	18	91.6%	1,837	96.3%	1,023	98.2%	815	94.0%
第4四半期	1,866	95.4%	16	89.9%	1,850	95.5%	950	96.1%	900	94.9%
上期	3,909	97.8%	36	94.6%	3,873	97.8%	2,137	97.6%	1,738	98.0%
下期	3,721	95.8%	35	90.8%	3,687	95.9%	1,973	97.2%	1,715	94.5%
年度	7,631	96.8%	70	92.7%	7,560	96.9%	4,110	97.5%	3,451	96.2%

表3-2：平成23年度4～7月 生乳生産量及び用途別処理量の見通し

千トン										
	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
	前年比	前年比					前年比	前年比	前年比	前年比
4月	629	95.1%	6	94.3%	623	95.1%	339	101.6%	284	88.4%
5月	666	97.1%	6	97.1%	661	97.1%	358	99.8%	303	94.1%
6月	637	96.0%	6	97.1%	631	95.9%	356	97.7%	274	93.7%
7月	634	95.9%	6	98.8%	628	95.9%	349	96.4%	279	95.3%
第1四半期	1,932	96.1%	17	96.2%	1,915	96.1%	1,053	99.7%	861	92.0%
合計	2,566	96.1%	23	98.0%	2,543	96.1%	1,402	98.7%	1,140	92.9%

4. 都府県需給の見通し

【都府県の生乳需給見通し】

・都府県における北海道からの搬入必要量（需要量）は前年を上回り、今後も前年を上回って推移すると見込まれる。

・都府県における特定乳製品向け処理量は、前年を下回って推移している。現状の基調で推移すると、今後も前年を下回る水準で推移すると見込まれる。

表 4：平成 23 年度 4～7 月 都府県の生乳需給の見通し

千トン

	生乳供給量 A		牛乳等向 B		その他乳製品向 C		A－B－C	移入量 (必要量)		特定乳製品向	
		前年比		前年比		前年比			前年比		前年比
4月	303	90.8%	294	99.4%	15	104.5%	-5	23	107.5%	17	38.4%
5月	320	94.0%	316	99.2%	14	102.7%	-9	29	118.0%	19	57.9%
6月	297	92.7%	317	97.4%	13	102.6%	-33	46	136.3%	13	79.2%
7月	290	92.1%	307	95.9%	14	100.0%	-31	46	114.5%	14	70.9%
第1四半期	921	92.5%	927	98.7%	42	103.3%	-48	97	122.9%	49	52.1%
合計	1,211	92.4%	1,234	97.9%	56	102.9%	-79	143	120.4%	63	55.0%

5. 酪農乳業をめぐる情勢、及び課題と対応

【生乳の生産及び供給】

● 生乳生産は、昨年度の宮崎における口蹄疫発生や猛暑が残した影響が今年度にも引き続き影響を与えていることに加え、3月の東日本大震災による生乳生産基盤への直接の影響、その後の原発事故の影響による一部地域の生乳出荷停止など、不透明な状況にある。

● こうした中、当面する生乳供給は、1月時点の見通しと比べ、都府県において減少すると予想される。

【牛乳乳製品及び生乳の需要】

● わが国経済は、円高基調やデフレ経済が続いていることに加え、東日本大震災が消費者行動に与える影響も続くものと考えられることから、依然、不透明である。

● 牛乳乳製品の需要動向についても、短期的には震災直後のサプライチェーンの混乱により特異な様相を呈し、現時点ではその先行きの判断は難しい状況にある。

● こうしたことから、当面する生乳需要は、震災前までのトレンドに基づいた予測とした。

【生乳の需給】

● 以上の状況と本見通し策定の前提に立てば、当面する生乳需給は、供給が需要を下回る傾向が続き、特に都府県において、夏場の需要期に向かってその程度が強まることが想定される。

● この場合、北海道からの生乳搬入による需給調整の必要量は例年以上に増加するものと予想される。

【酪農乳業の課題と対応】

1. 需給動向の把握と情報の共有化

酪農乳業を取り巻く情勢は先行き不透明ではあるが、逐次正確な情報収集と共有化に努め、変化に機敏な対応が取れるよう準備する。

特に、原発の操業停止による電力供給制限・節電が生産・流通・消費へ与える影響は、依然、不透明であることから、今後の需給見通しの策定や節電対策の推進に対しては、関係者が一体となった取り組みを進めることが重要である。

2. 的確な需給調整対策の実施

今後、牛乳乳製品市場に混乱を来たさないよう、生産者においては、生乳生産の回復状況を注視しつつ適切な飼養管理の徹底に、乳業者においては牛乳乳製品の需給動向を注視しつつ計画的な牛乳乳製品生産に努めることが必要である。

以上